

Benさん (VK6XC) 訪問記

JE3BEQ 宮本 誠一

(Ben さん宅を訪問することになった経緯)

毎年春はドイツで開催されるJAIGミーティング、秋は東南アジアを中心としたアジア全域及びオセアニアで開催されるSEANETコンベンションに参加し、そのチャンスに未訪の国を1か国一人旅して楽しんできた。この追加の訪問国を選ぶに当たって航空運賃をできるだけ安くあげるためには、目的国往復に一番メリットが大きい航空会社に統一する必要があるため自ずから限定される。今回のSEANETはマレーシアのクアラルンプールで開催されたが、未だ赤道越えを果たしていないことから東南アジア周辺ではなくオーストラリアに無性に行きたくなった。旅行会社に打診すると、別の航空会社になり格安運賃とは程遠いと言うので、何も今回無理をして行く必要は無いと一旦は諦めた。しかし古希を経てなおさら貴重になってきた時間のこと、先送りは面白くないともう一度旅行会社の別の担当に確認したところ、クアラルンプールにもっとも便利なマレーシア航空で、関空・パース・クアラルンプール間でループが組み、航空運賃も東南アジアを巡るのと変わらない条件で行けることが分かった。余談ではあるが、旅行会社は一人旅をあまり歓迎しないように感じる。現地観光のメニューに一人で参加できるものが少ないこと(国内観光も条件付きが多い)、ホテルと格安航空のチケットだけなら今時インターネットで簡単に購入でき、手数料としての魅力も無いからであろう。しかしそうは言っても一人旅は大変心細いもの、現地の情報を少しでも加味してホテルやオプションツアーを選択する相談ができるのはやはり有難い。今春バルセロナを一人旅していて夜偽警官に囲まれポケットのお金を盗まれたが、翌日深夜に行われたフラメンコショーからホテルに帰るとき、もし辺鄙な場所のホテルを選んでいたら、もしタクシーが無いような場所だったら、の不安が頭を過った。

オーストラリアに行きたい理由は、勿論先に述べた赤道越えではなく、パースに住んでいるハムのBenさん (VK6XC) を訪ねるためであった。彼とは2003年にマレーシアのジョホール・バールで開催されたSEANETコンベンションに初参加した時に会った。この時何故か彼と馬が合い今日まで続いている家族的な付き合いの一端を御紹介したい。Benさん一家は奥さんのLisaさん、息子さんのTim君、そして未だお会いしたことは無いが結婚されたばかりの娘さんがおられる。Benさんは交通信号機のコンピュータ技師、奥さんは近くのスーパーで働きながらパースの自宅とソージェーの別荘を切盛りされ、Tim君はパースのIBMでソフトウェアのエンジニアをしている。



写真1 懐かしい後藤さん (JH3GAH) と御家族、そして小笠原さん (JA1RJU)



写真2 SEANETのネットコントローラをしていた当時のBenさんとシャック

その翌年Benさんから息子のTim君が姫路獨協大学に留学するので宜しく頼むと連絡があり、たまたま家内の妹夫婦が姫路に住んでいることもあり好都合と身元引受人になった。その機会にJ13ZAGクラブの例会にも参加されたのでご記憶の方もおられると思う。



写真3 今は亡き三好二郎さん (JA3UB) に御馳走になるTim君と私



写真4 J13ZAGの例会にTim君が参加、注 後左左端河田さん (JP3AZA) は当時理論解析が進んで期待が高かった自作EHアンテナを披露

初めてTim君と姫路で会ったとき、彼を妹夫婦が趣味にしているヨットクルージングとバーベキューに招待した。丁度そのとき妹はボタニカルアートの作家として注目を受けテレビの取材を受ける日であったがTim君にも同席してもらったら、国際交流にも憧れの深い芸術家としての印象をもたらし、彼自身も又格好の取材的になった。

2006年のSEANET大阪では名誉ある申し込み1番乗りで、ホテルアイハウス最上階の3人部屋に宿泊し、SEANET終了後姫路に移動、再び大阪に戻って拙宅にも泊って頂いた。しばらくして彼から頻りに工事進捗の写真が届くようになった。近隣へのインターフェアーの事を聞いていたので、別のところにシャックを建設しているのだらうとは思っていた。彼が送ってくる写真は、最初に大きな貯水タンクのベースの土間の写真、次はガレージ(後でその半分がシャックと判明)の骨組みの写真、そして次は家庭用には巨大なピザオープンの写真など部分的なもののみで、完成の姿を想像してまるでパズルのようであった。出来上がったら招待すると言ってくれていたのが、今回実現したのだ。



写真5 ボタニカルアートの作品例 (田地川和子作)



左 写真6 :ヨット操船中にインタビューに答えるTim君
右 写真7 別のインタビューから取材を受けるTim君

(Benさん宅訪問)

さて話は戻って今回Benさんを訪問するにあたって、深夜のパス到着や旅行中の体調管理の点で勝手気ままにできる近くのホテルに宿泊したいと彼に頼んだところ、彼は怒って黙って自分の家に来ようこと返事をしてきた。その様な訳で深夜2時前にパス空港まで迎えに来てくれて、4泊お世話になることになった。

翌朝大きなハンマードルの音と声で眠りを覚ました。もう既に10時前で玄関ドアに金属メッシュの頑丈なセキュリティドアを取り付ける工事の完成寸前であった。彼は騒音の事を申し訳ないと言ったが、小生には目覚まし時計ですっきり目覚めて有難かった。朝ご飯はLisaさんがいないのでBenさんが作ってくれた。ちゃんと料理した美味しい出来であった。翌朝も別のメニューで、奥さんに頼らず自分で何でもこなす彼の生活イメージが伝わってきた。

Benさんの家は閑静なパスの郊外にあり、シャックは2003年～2006年当時のQRZ.COMに載っていたそのままであった。家の中は見事に整頓されているがシャックは御世辞にも綺麗とは言えなく、何時でも役に立つ典型的なハムの作業部屋であった。TVIとアンテナを高く上げるのに気を遣うのことで、今はここから波を出すことには余り積極的では無いとお見受けした。

昼前からパスの市内見学に連れて行って貰った。1998年のパスで開催されたSEANET会場のホテル(今は他の目的に使われている)、参加者が利用したベトナムのレストランそしてタダで乗れる観光目的の循環市電など、参加された方々にとっては懐かしく思い出されるのではないだろうか。



左 写真8 料理中のBenさん
中 写真9 本宅シャックのアンテナ
右 写真10 パスの市街地を背景に



写真11 :SEANET1998の会場だった元ホテル



写真12 :ここで昼食をとった方も?

夕方帰り道Lisaさんを迎えに勤め先のスーパーマーケットに立ち寄り 感激の再会をした。夕食の買い物中にLisaさんに進呈するワインを選ぶべく高価な陳列棚を見ていると Benさんが安価な棚を見るように助言した。価格で選ぶのは間違った方法と分かってはいるがラベルで選ぶ基準は持ち合わせていず 当たるも八卦」でエイヤ!と買った。これが大変美味しくて喜んで頂けた。夜はTim君がピアノとヴァイオリンを披露してくれた。



写真13 :ピアノを弾くTim君



写真14 :ついでに私も借用してヴァイオリンを弾く

翌日パースのカバシャムワイルドパーク(動物園)と日市街を案内して頂いた。行き道のドライブ中にBenさんとタイヤの話になった。オーストラリアには定年退職の概念は無いそうで、彼が単に定年後を楽しむために別荘を作ったのでは無いことが分かった。ワイルドパークの入り口で入場券を買う時、彼はリタイヤを証明できるものを携行しているかと聞いた。たまたま大阪市営地下鉄の老人パスを持っていたのでそれを差し出したら、係員が笑顔でようそと無料で入園を認めてくれた。海外の入園者にも基準を適用し何が書かれているのか分からないものを信用しての対応に、嬉しく思ったのは言うまでもない(老人パス、ましてや海外での使用 適用に複雑な心境も?!)。夕食を済ませて一休みの後Lisaさんがコーヒーを入れてくれた水筒を持って、未だ見ぬBenさんの別荘があるソーシェーに向かって星空の中を1時間ほどドライブした。車は西部劇に出てくる牧場の入り口のような所で止まり 遠くまで続く針金の柵の起点がヘッドライトに光って見えていた。ふと何か動いたので良く見ると、小さなカンガルーが迎えてくれていた。夜も遅かったがリビングの大型スクリーンに映し出される映画を楽しんでベッドに入った。客室は複数用意されておりバストイレも独立していて、まるで五つ星ホテルであった。



写真15 :ウオンバットと一緒に



写真17 :客室の様子

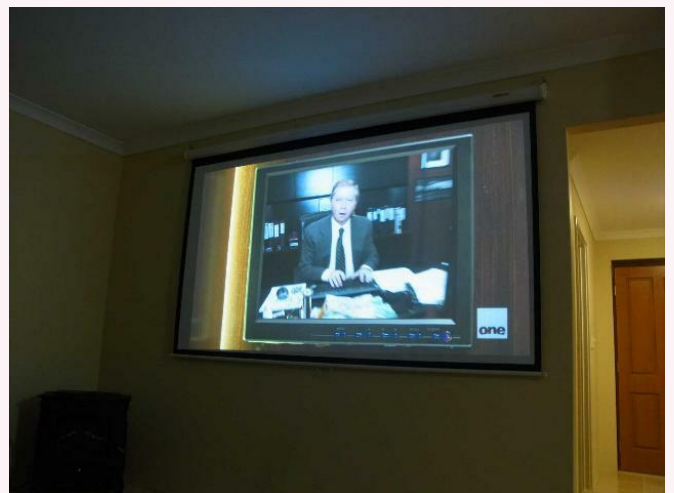


写真16 :上映中の大型スクリーン

翌朝Benさんは朝早くから別荘の手入れに余念が無かったが、早速敷地内を案内してくれた。針金の境界は牧場みたいに延々と続き、1件だけ見えている隣家でも数百メートルは離れている。建物の入り口に面した表側には、大きな自作のピザオーブンとバーベキューオーブンがセットされていた。真冬でも使えるように、強力な暖房ヒーターと防寒カーテンの設備も完備されている。建物の裏の庭部分には、Lisaさんが5、6種類のトロピカル・フルーツの苗木を区画を広くとって植えていて、将来の果樹園を楽しみにされている。又彼女のデザインによるキッチンとリビングは、家族は勿論のこと来客とも楽しめる空間にアレンジされていた。2006年Benさん一家がSEANET大阪で来日したとき、姫路の妹は自作のポタニカルアートの絵をLisaさんにプレゼントした。なんとその絵が綺麗に額装されてリビングのあちこちに飾られているのではないかと。私はこの様子をすく妹にメールで伝えたが、Lisaさんに喜んで貰えたこと大変嬉しく思っている。Benさんの別荘シャックは、離れの大型貯水タンク(乾燥地帯の為生活用水は屋根で受けた雨水をタンクに貯める必要がある)の横のガレージの中にある。早速スイッチオンしたら、ノイズ無でJAもガンガン入って来た。しばらくゲストオペで楽しませて貰った。



写真18 :ピザオーブンとバーベキュー設備



写真19 :リビングの様子1



写真21 :リビングに飾られた妹の絵とBenさんご夫妻



写真20 :リビングの様子2、訪ねてきたKimさん (VK6UO) と奥さん

今回の訪問は私にとって忘れられないものとなったので、Benさんを知っておられる方へのご報告と、コールサインで繋がるハムの付き合いの一端のご紹介を兼ねて投稿させて頂いた。

Benさん、Lisaさん、Tim君、有難う

73

de JE3BEQ



写真22 :シャックのあるガレージ、アンテナと右端に貯水タンクが見える



写真23 :ゲストオペ中の私